



# 江南の子

令和4年度  
第7号



## 基礎・基本と進化・発展

校長 藤井 正人

今年も歴史に残る金字塔を打ち立てた大谷翔平選手。驚異的な進化・発展を続ける大谷選手にも、野球選手としての基礎・基本があります。それは、小2で始めたリトルリーグのコーチでもあるお父さんとの交換野球ノートに残されています。お父さんは次の3箇条を野球ノートに繰り返し書いて、大谷少年を叱咤し、激励し続けたそうです。大谷選手は、

① 一生懸命声を出す。

② 一生懸命キャッチボールをする。

③ 一生懸命走る。

この3箇条こそが自分の野球選手としての原点であり、今でもすべてのプレイをするときの基礎・基本となっていると話しています。

野球界だけでなくあらゆる領域や分野において、基礎・基本があり、それが土台となり進化・発展する姿があります。学校教育でも、教科の学習はもちろんのこと、他の活動にもたくさんその姿は見られます。ここでは、日常の身近な事例を3つほど紹介します。

### ○ 当番活動と係活動

後期に入り、多くの学級で当番活動や係活動が再編成されました。ところで、当番活動と係活動との違いは何でしょうか。大きな違いは、当番活動は全員が均等にほぼ毎日行う活動（日直や給食など）であるのに対して、係活動は選択的・自主的な活動だということです。そして、**当番活動には義務と責任が、係活動には工夫や創意が求められます。**

つまり、学級生活を安定させるための基礎・基本が当番活動。学級生活をさらに楽しく活気あるものに進化・発展させるのが係活動。ですから、係活動を「〇〇会社」と命名している学級もあるくらいです。5年生の学級では、「バースデイ会社」「占い・マジック会社」「ミニゲーム会社」「クイズ会社」「かざり会社」…多種多様な会社が設立されています。

### ○ 宿題と自学

教師から内容や量を指定されて課されるのが宿題。そして、やはり内容や量を自主的に決められるのが自学。まず、宿題によって家庭学習の習慣が身に付きます。そして、**その習慣が基礎・基本となって自学に進化・発展します。**

自学は2年生あたりからどんどんできるようになります。天気に関する手話調べ、育てている野菜調べ、エレベーターで発見した点字調べ…旺盛な好奇心が発揮されています。

### ○ スピーチとコメント

前期終業式と後期始業式では、6名の児童が代表として、振り返りや目標を立派に発表してくれました。原稿を書き、それを時々見ながら、または暗記をして、はきはきとした声と聞きやすい速さで話す。これが、他に伝える時の基礎・基本となるスピーチです。

12日に開催された演劇鑑賞会。最後にお礼の言葉を6年生が述べました。発表の中に、印象に残った場面や感想を織り交ぜていたことに感心しました。**劇を見ながら、即興的に内容を考えたのです。**これがスピーチから進化・発展したコメント力。さすが6年生！